



# 布水だより

No.2

令和7年4月21日  
布水中学校  
校長 若狭朋幸

## ◆ 「歓喜」と「緩急」 そして・・・

1学期始業式と入学式で生徒に『歓喜』という言葉を紹介しました。「歓喜」心の底からの喜びという意味です。そして在校生には「緩急」減り張りという言葉も紹介しました。

今年度は、「歓喜」と「緩急」という言葉に「そして・・・」という言葉を加えてテーマとします。それは、「歓喜」と「緩急」から生まれてくる言葉や目ざす姿を、子どもたちに創造して欲しいからです。

これは、普段の授業や部活動、旅行的行事、運動会や合唱コンクール等、これから始まる様々な場面を、仲間と共に心の底から喜び合える時間にして欲しいという思いを込めています。そして、そのためには「誰かのために、何ができるか」を考え行動することがとても重要になります。時には困難なことや壁にぶつかるかもしれません、仲間と知恵を絞り、力を合わせて乗り越えてほしい。そういう体験が、子どもたちの成長にとっても重要です。仲間を大切にし、心身ともにたくましく成長していくことを心から願っています。中学校で生まれた仲間との絆は、生涯の宝物となります。



## ◆子どもたちにとっての安全・安心な学校のために…「いじめ防止対策推進法」

○いじめ防止対策推進法でいじめとは

- ・一定の人間関係が存在
- ・心理的又は物理的な影響を与える行為
- ・心身の苦痛を感じている

とされています。

これって“いじめ”？

**ケース1 男子Aと男子B**

昼休みに陽気な男子Aは男子Bと共に数人の友達と楽しい時間を過ごしていた。調子に乗って話す男子Aは、ツッコミのつもりで男子Bの背中を少々強くたたいた。翌日、男子Aを不安に思った男子Bは男子Aを避けるようにした。

心の声や訴え

男子A—男子Bに避けられて嫌な思いをして苦痛を感じた。

男子B—たたかれたことが苦痛で男子Aが怖くなり不安に思った。

## ケース2 女子Cと女子D

放課後の教室で女子数名が他愛もない会話をしていた。女子Cは自分が推すアイドルのことをずっと話し続け、興味がなく嫌気がさした女子Dがだまってその場を離れた。

### 心の声や訴え

女子Cー私が話をしていた途中に、女子Dは無視して離れていった。苦痛を感じた。

女子Dー女子Cから興味のない話を聞かされ同意まで求められて、苦痛でしかなかった。

### これって・・・

ケース1の男子A、男子B、ケース2の女子C、女子Dは4名ともそれぞれ相手の行為から心身の苦痛を感じていると捉えることができます。「えっそんなことで」と思われるかもしれません、場合によってはこの4名の生徒は全て“いじめられた側”となる可能性があります。また“いじめた側”となる可能性もあります。

この事例は普段の生活の中では起こりがちな事例なのですが、いじめ防止対策推進法に照らすと「いじめ」となる場合があるのです。

### いじめは決して許されません

いじめに合うと本人もそのご家族も深く傷つき、とても辛い思いをします。もちろん暴力や誹謗中傷（悪口や嘘で相手を傷つけること）はあってはならない行為です。人の物を勝手に使ったり壊したりする行為もいけません。嫌な思いをする人がいるということは、嫌な思いをさせている人がいるということなのです。

### 「歓喜」心の底からの喜びを目指して

学校生活の中で、「歓喜」に向けて取り組むときには様々な心の動きが表れます。意見が違ったり、ふざけてばかりで真面目に取り組まない人がいたり、クラスが二つに割れて対立したりなど、思春期は、たくさん悩み、反抗し、自分で考えながら大人として自立していく大切な時期です。例えば合唱コンクールで、練習を始めたときはバラバラだったクラスが、多くの困難を乗り越えながら一致団結していき、最後にはすばらしい合唱で笑顔と感動の涙で包まれる…、このような「歓喜」の経験が子どもたちを成長させてくれるのです。

### 私たち大人の役割は

「いやな思いをした（いじめなど）」に素早く対応する

○友達とのこじれた人間関係をほどいていく

- ・「あれ？元気ない、おかしい」と子どもに違和感を感じたときは、子どもに声をかけて何があったのか確認することが、いじめの未然防止と早期発見・早期対応につながります。（学校と保護者が情報を共有する）
- ・大人からみれば些細なことも、子どもにとっては大きなことです。子どもに寄り添い、どのようなやな思いをしたのか聞きましょう。
- ・友達とのこじれた人間関係をほどいていくために、関係する保護者と学校が協力して、思いやり（ごめんなさい）や寛容（許してあげる）、同じことを繰り返さないことを指導ていきましょう。

石川県教育委員会「『伸び伸びと明るく過ごせる学校づくり』を進めましょう」から

布水中学校のホームページにも学校生活のようすを随時記載していますので、ぜひご覧ください。

学校への質問やご意見などございましたら下記へどうぞ。

連絡先 076-248-0039（担当 教頭 北川・主幹 東方）メール fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp